

優
秀
賞

森林を大切にしたい

鹿沼市立永野小学校三年

古橋 菜月

わたしの家は、まわりが山でかまれています。昼間はサル、夜はイノシシやシカ、タヌキが家の近くまできてはたけの作物を食べてしまいます。

動物たちが山から下りてきて、また山にもどるから山が動物たちの家だと思っていました。だから山の木を切るのは動物たちの家をこわしてしまうと思っていました。でも、少しの木を切つてきれいにするのは、山にもそして動物たちにも、とても大切なことだとお父さんが教えてくれました。

わたしは、なぜ、山の木を切ることが大切なのかわからなかったので、お父さんにくわしく聞きました。お父さんは、山の木を少しだけ切ることを、「かんぱつ」と言っていました。「かんぱつ」とは、せい長のわるい木やびょう気の木を切つたりしてきれいにせいびすると「山が元気になる」と教えてくれました。山が元気になれば動物たちが食べる木の実などもたくさんできて、わたしの家のはたけの作物も食べられなくなると思います。山が元気になれば、動物たちも山で気持ちよく生活できると思います。そのためにも「かんぱつ」は、ひつようなんだと思いました。

わたしは、今までは、山は、自ぜんのままにしておき、人間が山に入らないことが山にとってはよいことだと思っていました。しかし、森や林にとつては、人間がせいびをするので、自ぜんのうちくしさが、ずっと保たれていくのです。

これからも、人間と動物がなかよく、生活するためにも、地いきの森林を町の人みんなで守っていけたらいいなと思います。

